

会社説明会資料

2010年3月3日



目次

会社紹介

セブン銀行の強み

経営戦略

基本情報 本社所在地 東京都千代田区丸の内1-6-1
 主要業務 ATM事業／金融サービス事業

主要データ (2009年12月末) 純資産額 1,064 億円
 資本金 305 億円
 ATM台数 14,339 台
 有人店舗 6 店
 従業員 322 人

設立のコンセプト みんなのATM

いつでも 24時間365日
どこでも 日本全国
だれでも 国内約560の提携金融機関
 海外発行カード
安心して 衆人環視、高セキュリティ

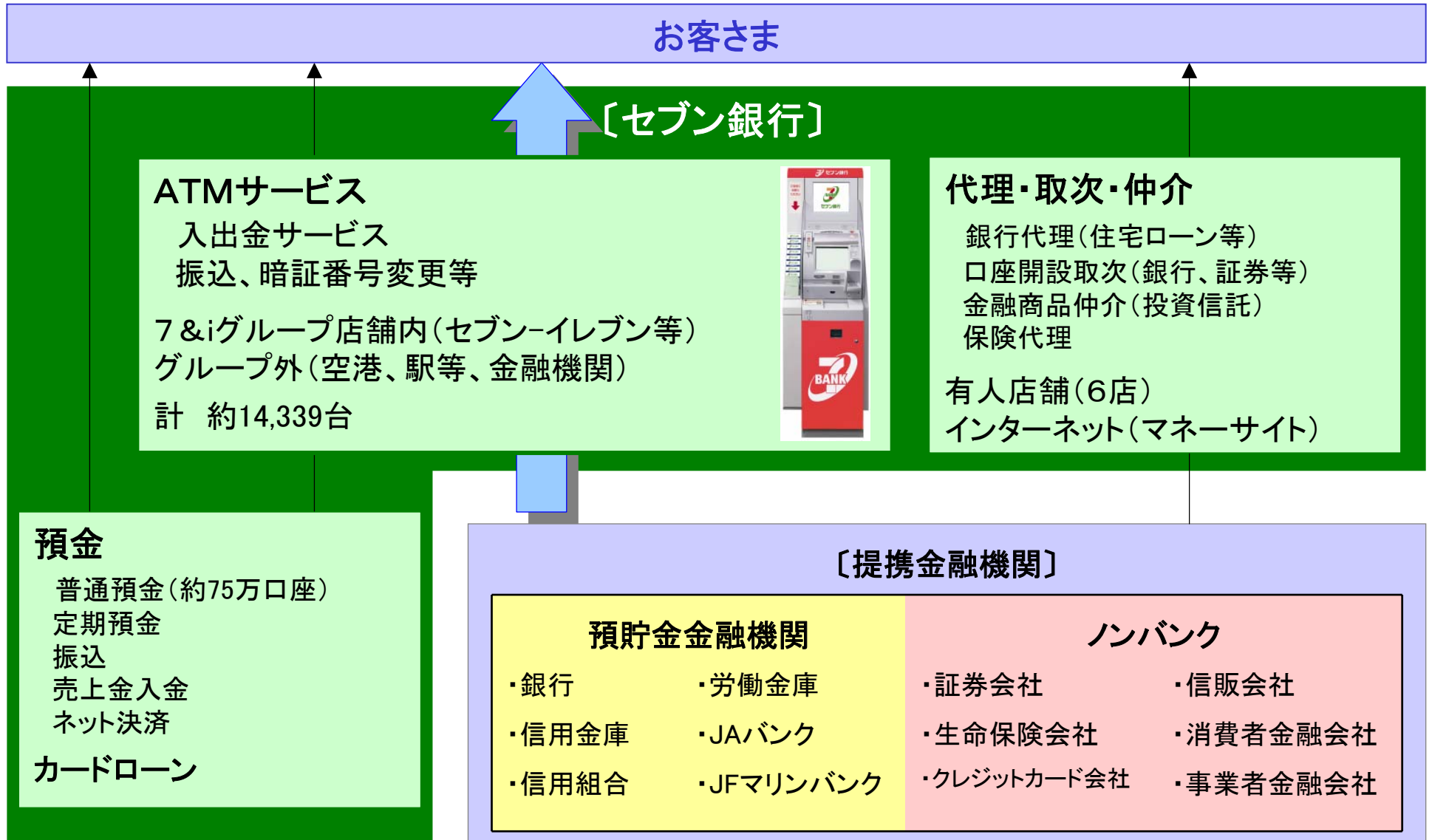
沿革 2001年4月 アイワイバンク銀行設立
 2005年10月 セブン銀行に社名変更
 2008年2月 ジャスダック証券取引所上場

主要株主(2009年9月末)

株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
(株)セブン-イレブン・ジャパン	353,639	28.98
(株)イトーヨーカ堂	146,961	12.04
(株)ヨークベニマル	52,400	4.29
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	39,725	3.25
(株)ライフフーズ	30,000	2.45
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	27,181	2.22
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	18,152	1.48
(株)三井住友銀行	15,000	1.22
第一生命保険相互会社	15,000	1.22
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口9)	13,991	1.14

株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
7&i HD関連企業	583,000	47.78
金融機関	218,769	17.93
金融商品取引業者	13,012	1.06
その他法人	82,841	6.79
外国法人等	218,692	17.92
個人・その他	103,713	8.50

注1 持株比率は小数点第3位以下切捨て
 注2 橙色の網掛けは7&i HD関連企業
 注3 その他法人には7&i HD関連企業含まず



A銀行のお客さま

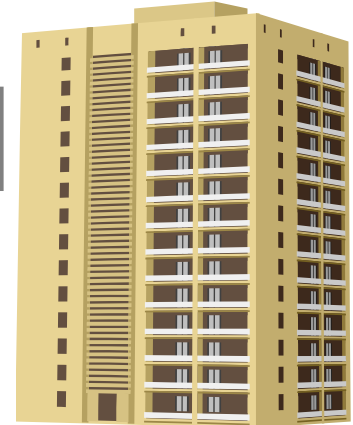


A銀行画面



ATM受入手数料

A銀行



ATM利用手数料
(口座保有銀行が決定)

お客さま(利用者)のメリット

- 時間・場所の利便性
 - 24時間365日営業するコンビニ店舗内
 - 全国的なネットワーク、ほとんどのカードが使える
 - 使い慣れたいつもの画面
- 安心・安全

ATM提携金融機関のメリット

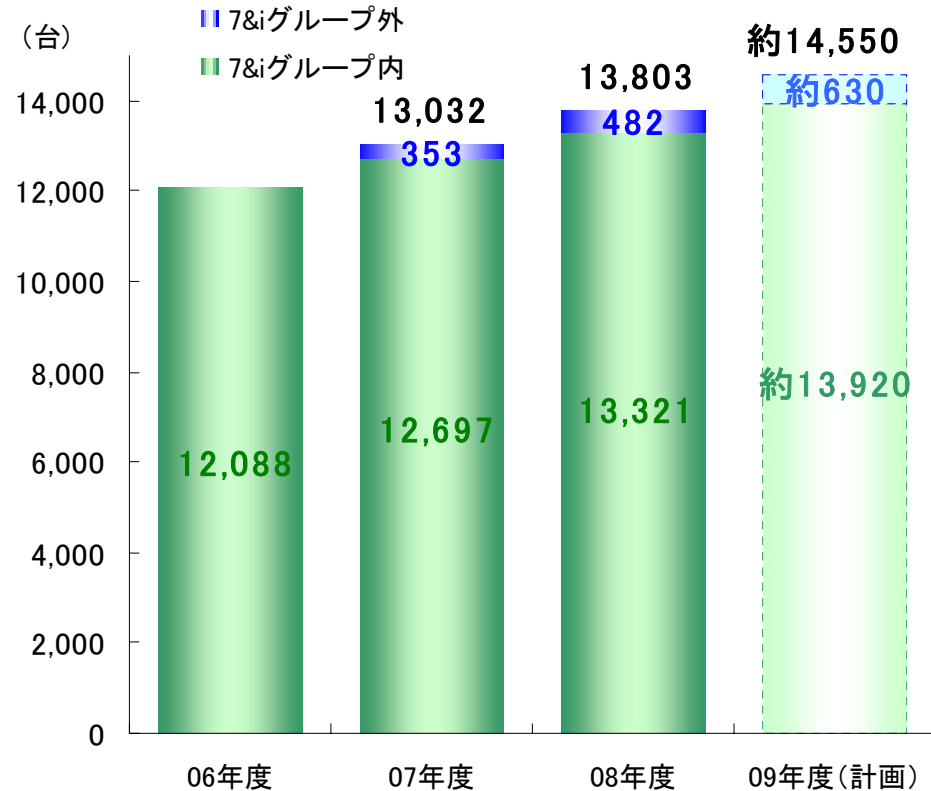
- 自行ATMと同様に活用可
 - ATM利用手数料はそれぞれの銀行戦略で決定
 - 自行優遇制度の一環として活用
 - 自行ATM同様の画面等を提供
- 既往ATMネットワークのバックアップとして活用可
- 自行ATMの維持メンテナンス・資金調達コスト削減可

提携金融機関数

	09年 12月末
銀行	99
信用金庫・信用組合	386
労働金庫	13
JA・JF・商工中金	3
証券・生保	16
その他金融機関 (消費者金融、クレジットカード会社等)	43
合計	560社

注「セブン銀行」は提携先数には含まず

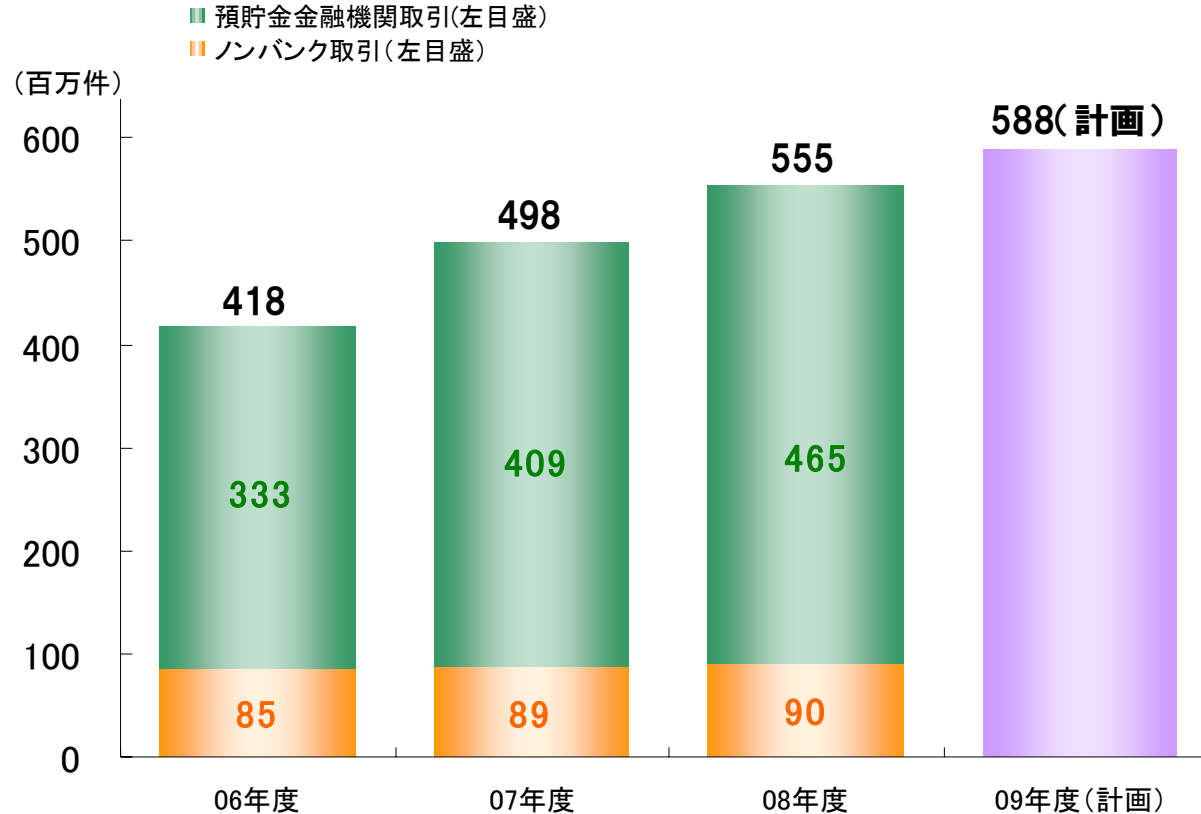
ATM設置台数の推移



主な7&iグループ外設置先

証券会社等	空港	駅・高速道路
商業施設	ホテル	病院

ATM総利用件数の推移



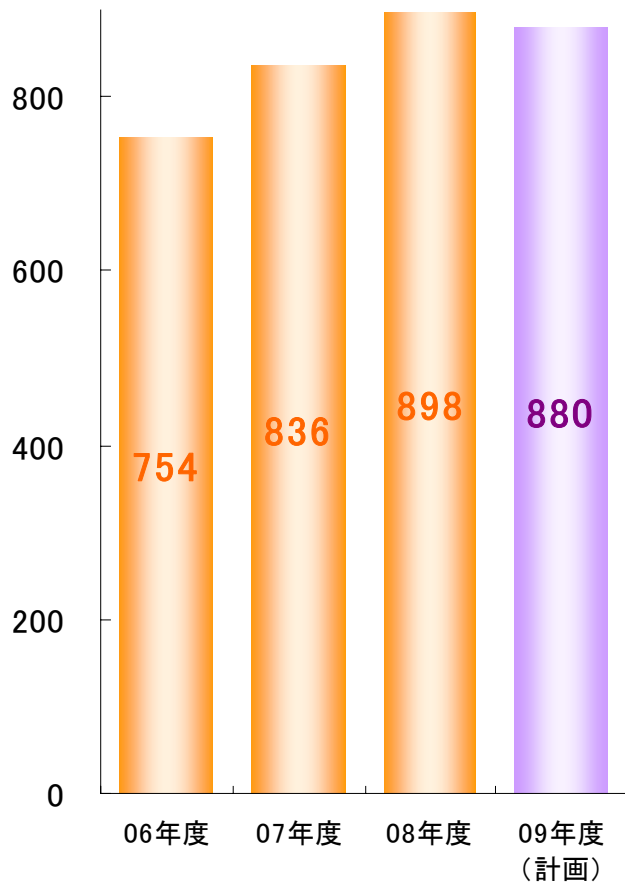
注1. 平均利用件数、総利用件数は残高照会、電子マネーチャージ、暗証番号変更、利用限度額変更を除くベース(次頁以降同様)

注2. 総利用件数は単位未満切捨て、平均利用件数、ATM受入手数料単価は小数点第2位以下切捨て

注3. ATM受入手数料単価は、ATM受入手数料÷(総利用件数-ATM受入手数料収入を伴わない利用件数<売上入金等>)で算出

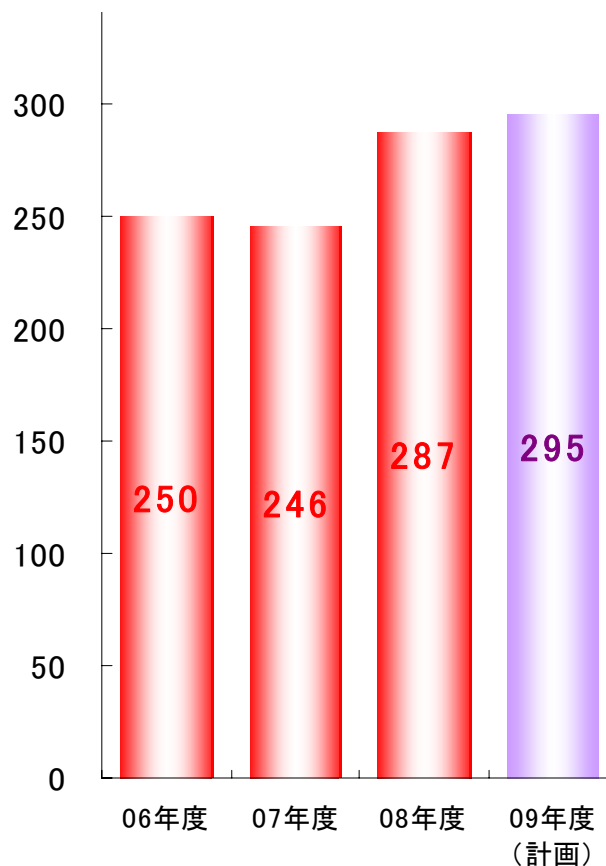
経常収益

(億円)



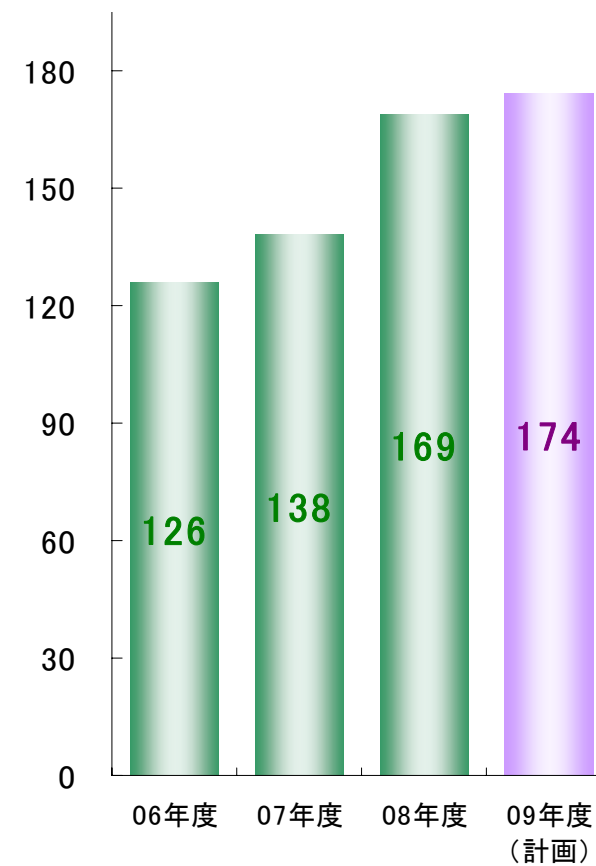
経常利益

(億円)



当期純利益

(億円)



安心

個人情報を守るデザイン

テンキー: 入力暗証番号が掌で隠れる
 操作画面: 斜め後ろから取引内容が見えない

ICカード利用可能

だれでも

提携金融機関ごとの画面表示

カード挿入によりお客さまが見慣れた各提携銀行のATMと同様のオリジナル画面を表示

海外カードで円の引き出しが可能



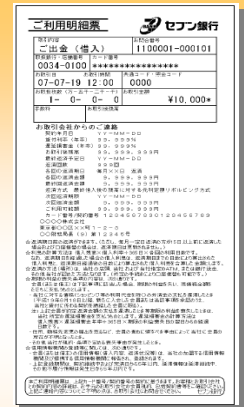
高度な防犯機能

- ・暴力的な強奪に、インクで紙幣を染める
- ・各種防犯装備と犯人逮捕に繋げるカメラ
- ・電文を盗聴からまもるトリプルDES暗号



貸金業法定書面を
印字可能

提携先に代わって貸金業法で
求められる書面を印字可能



視覚障がい者も利用可能

音声ガイダンスに従ってインターホンで操
作できる機能を装備

全国展開する巨大なネットワークと事業基盤

- 24時間365日利用できるセブン-イレブン店舗内の他、駅や空港など7&iグループ外にもATMを拡大。全都道府県に展開を実現。
- 日本国内のほとんどの金融機関カードや海外発行カードの利用が可能。
いつでも、どこでも、だれでも安心して使えるATMを目指した取組みにより、収益は着実に増加。

ATM設置台数

14,339台
(09年12月末)

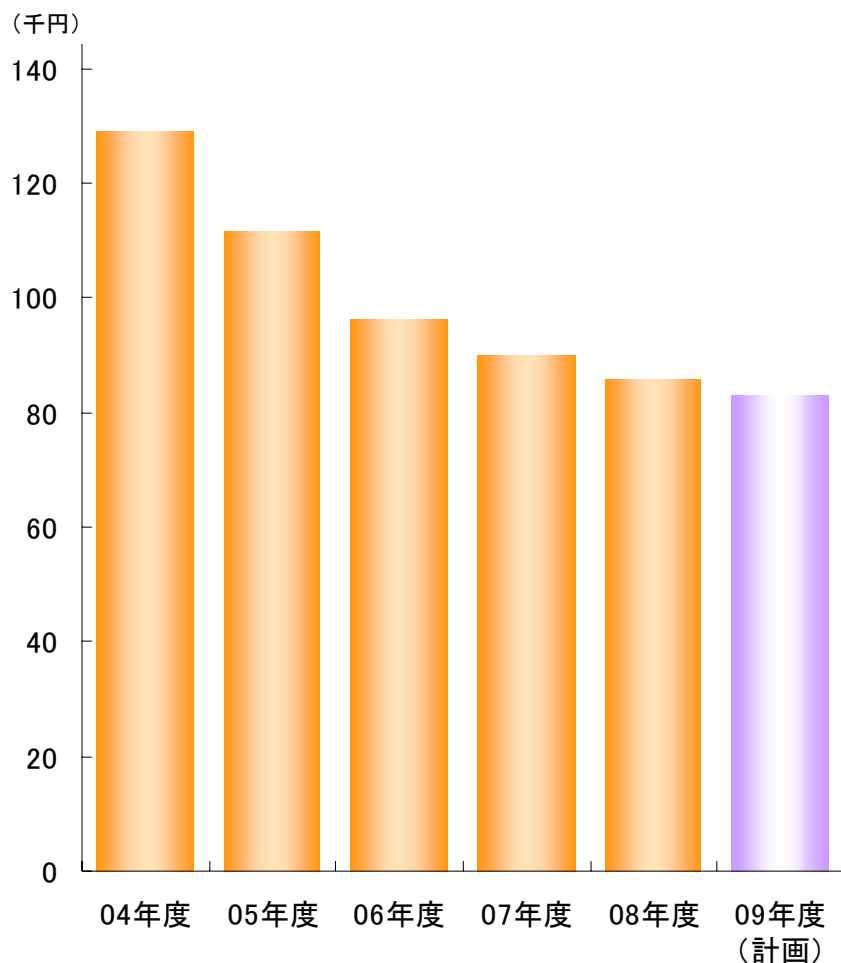
設置エリア

全国47都道府県

提携金融機関数

560金融機関
(09年12月末)ATM1日1台当たりの
平均利用件数**115.8件/台/日**
(09年10月~12月)ATM1日平均
利用人数**約156万人**
(09年10月~12月)

1台当たりの月間業務委託費



注. 業務委託費 ÷ ATM稼働台数

効率性の向上を求めて

- 台数増によるスケールメリット
- 05年度からは、より効率的なATMへ移行

- ・ 取引処理速度の向上
- ・ ATM設置場所毎の現金ニーズを分析し、それに最適な現金格納庫の組み合わせを選ぶことで、現金交換回数を削減し、経費抑制を実現。
- ・ 第2画面を導入して紙媒体を廃止

(1台当り月間現金交換回数)

04年度	約3.5回/台
09年度(4月～12月)	約1.7回/台

- 安定的な預金が着実に増加
- 高格付を活かした、より長期の社債を低利調達

財務健全性と高い信用力

- 単体自己資本比率(国内基準)
49.98%

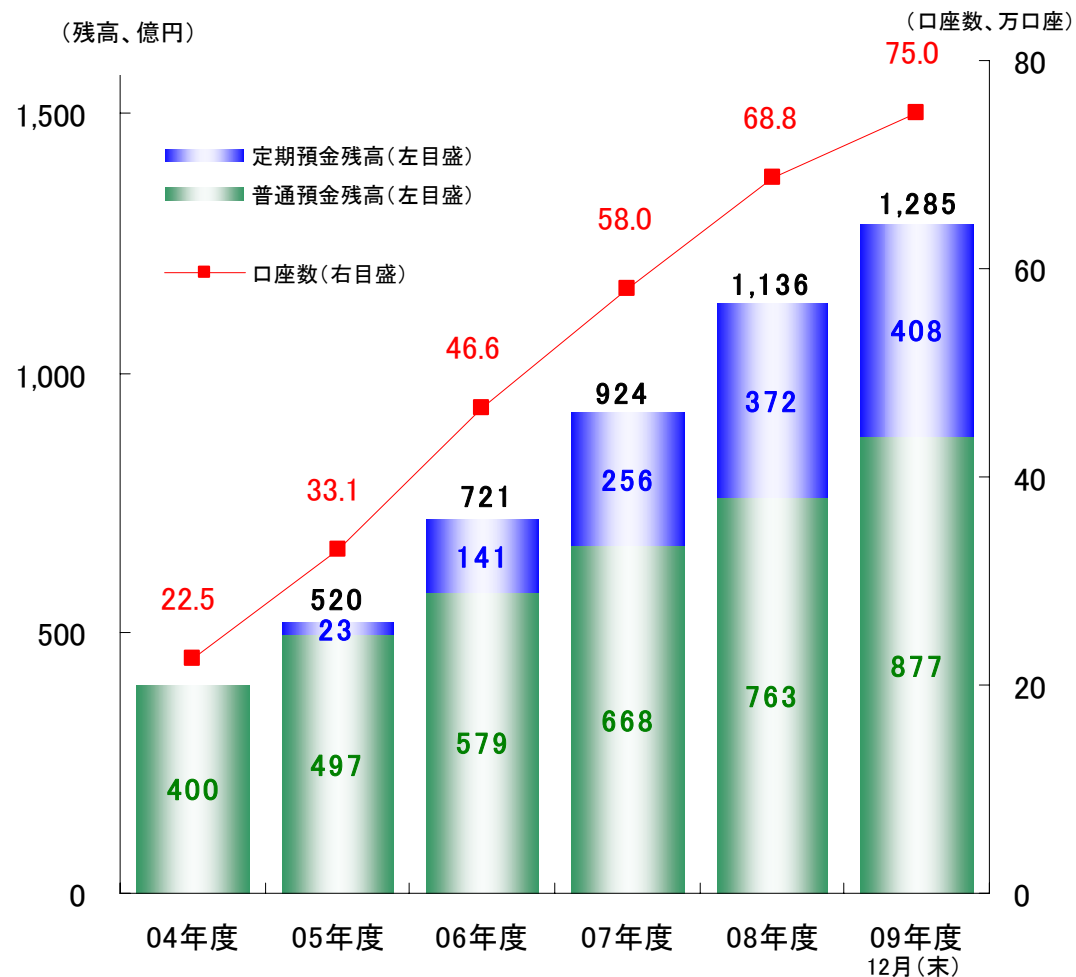
- 格付

S&P AA-(長期発行体)

R&I AA (発行体)

(09年12月末現在)

セブン銀行口座(個人)の状況



注 残高・口座数は年度末の計数

新たな価値の創造による持続的成長と厚みのある収益構造の実現
～ 守りを固めつつ、将来の成長に繋がる機会を積極的に追求 ～

収益機会の拡大

- 1) 採算重視の堅実な設置
～ 数のみを追うことはしない
- 2) 多様な受託モデルの構築
～ ATM事業の多角化
- 3) 新事業・サービスの検討
～ 小口金融ニーズへの対応

コストコントロールの徹底

- 1) 投資採算管理の徹底
- 2) 経費効率性の更なる向上
- 3) 償却費の平準化
～ ATMの次期更新時には償却平準化を念頭に置く
- 4) 償却済資産の活用

- ◆ 2012年3月末までにATM16,000台、うち7&iグループ外1,200台を目指す
- ◆ 着実に利益を積み上げる
- ◆ 年間配当性向35%を目標とする

●足元の事業環境

- 雇用・所得環境は厳しく、個人消費の低迷続く
- 法改正や資金繰り悪化によるノンバンク提携先の苦境

●2009年度～2010年度の取組み**1. 7&Iグループ外ATM設置先の拡がり**

- 空港、駅、ショッピングセンター、サービスエリアに加えて空港制限エリアに設置
- 金融機関ATMの肩代り、ノンバンクATMコーナーへの設置

2. 経済条件の見直しを戦略的に活用**4. 新サービスの開始・準備着手**

●今期・来期は、再来期以降の発展に結びつけるための足場固め

●小口金融サービス

:個人向けローンサービス開始(2010年1月25日)

～口座の魅力向上、活性化

～預金増による調達コスト低減、利息収入を見込む

～すでにある14,000台以上のATMネットワークの強みを最大活用

- ・当社口座保有者を対象(09年12月末、約75万口座)
- ・10万円の貸出枠を設定(金利:15%)
- ・アコム株式会社が信用保証し、貸倒リスクはなし

●海外送金サービス(準備中)

:2011年3月期中のサービス開始予定

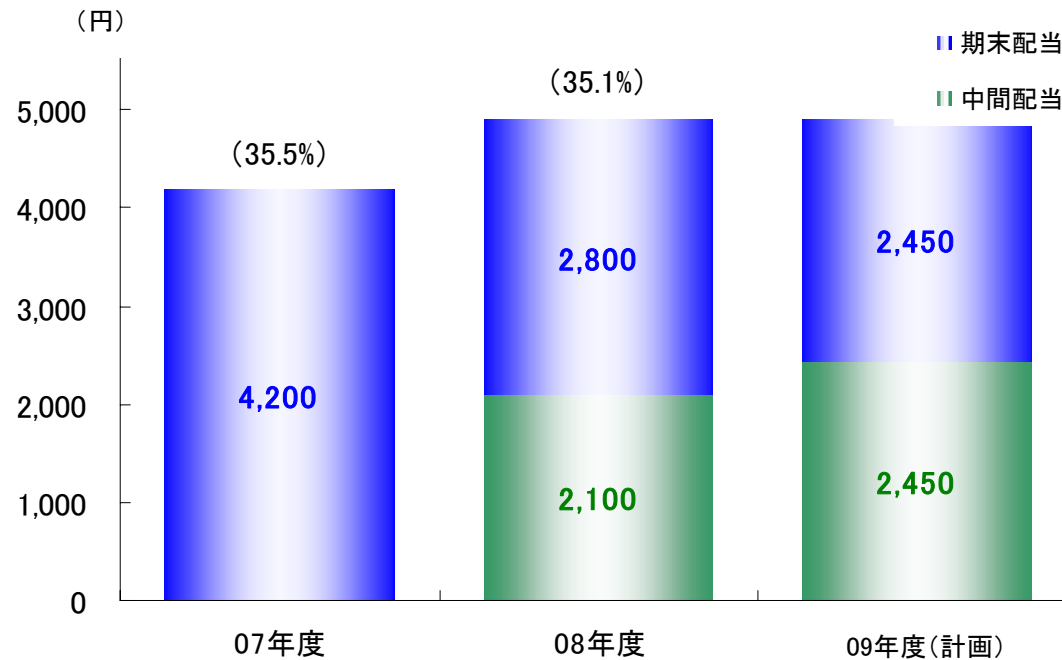
～送金業世界最大手のウエスタンユニオンと提携し、魅力あるサービスを提供

～アンチマネーロンダリング対応も徹底

- ・いつでも (24時間365日、送金可)
- ・どこでも (全国14,000台以上のATMやネットバンクで送金可)
- ・どこへでも(送金先は200以上の国と地域、受取口座不要)
- ・安価、安心(手数料は安く、着金は早く)

配当性向35%を目標

1株当たりの配当額



注1. ()は、配当性向

注2. 08年度から、中間・期末の年2回配当実施

注3. 06年度(非上場)は、創業初の配当(5,000円記念配)を実施

本資料には、株式会社セブン銀行の業績に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは、具体的な歴史的事実を除き、本資料の作成時点において取得可能な情報に基づく予測等を基礎として記載されています。これらの記述のためには、一定の前提（仮定）を置いています。これらの記述及び前提（仮定）は主観的なものであり、かつ、様々なリスクや不確実性が内在しています。かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想等とは異なる結果となる可能性があります。かかるリスク及び不確実性には、システム障害、災害、犯罪、その他ATM事業及び金融サービス事業を取り巻く様々なリスクが含まれますが、これらに限定されるものではありません。また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。なお、本資料に関する全ての著作権その他の権利は当社に属します。